

関東大震災時の朝鮮人虐殺はいつどこで起こったのか

12日にラポール日教済・山中ホールで日教組・全国退女教・日退教・教職員共済生協・教職員相互共済会の五者合同学習会～安心して心豊かに暮らせる社会をめざして～が開催された。その中で、午前午後に分けて二本の講演が行われ、ここでは午前の専修大学教授・田中正敬さんの標記講演から特に印象に残った内容を以下に紹介します。

○□流言はどのように拡げられたか

9月1日正午近くに震災が起こり、約1時間後に軍の東京衝戒司令部が「非常警備に関する命令」を出し、翌2日「非常徴発令」、「戒厳令」が発布された。街中では警官が流言をふれまわっていたという記録もある。流言は東京の下町や東海道筋、文京区周辺が多い。

通信手段と権威を持つ政府が流言を拡げたとの見方もある。当時、警視庁官房主事だった正力松太郎は1日の夜、新聞記者を集めて「朝鮮人が謀反を起こしているという噂があるから、各自気をつけろということ、君たち記者が回るときに、あっちこっちで触れてくれ」と頼んだという証言もある。内務省からは2日に埼玉県郡町村長宛に、東京に於いて不逞朝鮮人の妄動有之...この際町村関係者は、在郷軍人分会・消防隊・青年団等は一致協力して、その警戒に任じ、一朝有事の場合には、速やかに適當の方策を講ずる様至急相当御手配相成度と。3日には無線で各地方長官宛に、東京付近の震災を利用し朝鮮人は各地に放火し目的を遂行せんとし...厳密なる取締を加えられたと打電の記録もある。

○□関東大震災における殺傷事件の実態

東京では、1日夜半、月島で軍隊が朝鮮人を撲殺。2日の戒厳令施行以後、小松川他で朝鮮人を虐殺。3日、大島町で中国人虐殺。5日、平沢計七始め社会主義者が軍隊により虐殺。神奈川では、2日に高島町・神奈川・横浜港で中国人虐殺の記録、横浜およびその周辺で朝鮮人虐殺の記録。4日、鶴見で自警団による朝鮮人虐殺。千葉・埼玉・群馬でも4日以降、自警団や民衆による朝鮮人の虐殺が記録されている。何故これらの事件が続発したのか、それは日本の植民地支配による内在的な恐れがあった。

○□関東大震災朝鮮人虐殺から百年。現在の政府の対応

杉尾秀哉参議院議員(立憲民主党)「当時の記録はそのままコピーされて、これ国会図書館でしかもインターネットで検索できるんですよ。あるんですよ」

楠内閣官房長「政府といたしまして調査した限りでは、政府内に事実関係を把握する事ができる記録が見当たらなかったことから、仮にご指摘の史料を確認しても、その内容を評価することは困難であるというふうにご考えているところでございまして、ご理解いただければと考えております」

谷国家公安委員長「政府内で事実関係を把握することができる記憶が見当たらなかった、ということでございまして、更なる調査ということは考えていないところであります」